

科目番号 3701	授業科目名: 文化理論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後水 4	英文名: Culture Theory	海老根 剛 准教授	2・3 年	2 単位

● **科目の主題**

表現文化コースで学ぶ学生を対象に、文化の考察に不可欠な基本的視点と理論を概説します。表現文化コースは本質的に学際的であり、そこで扱われる対象も多様です。したがって、個別的な主題の多様性のなかにコースの全体像が見失われてしまいがちです。この講義では、表現文化コースが前提する「文化」についての基本的な考え方をいくつかの観点から解説します。

● **到達目標**

文化の概念の歴史的変容を確認し、文化を考える基本的視点を獲得する。

● **授業内容・授業計画**

今回の講義では、まず文化という次元の人類学的起源を確認し、近代社会と、後期近代とも呼ばれる現代社会における文化のありようを、それを対象とする代表的理論とともに解説します。さらに授業の後半では、特に芸術とコミュニティに関わる諸理論を参照して、創作行為の意味合いが 19 世紀から現在までどのように変化してきたのかを考察する予定です。詳しい授業計画はガイダンスで示すので受講希望者は必ず出席すること。

● **評価方法**

授業期間中に課す複数回のレポートによる。また、レポートの代わりに発表の機会を与えることもあり得る。

● **受講生へのコメント**

表現文化コース二回生は必ず受講すること。

教室の関係上、履修希望者多数の場合には、表現文化コースの学生を優先したうえで受講制限を行うことがある。

● **参考文献・教材**

文献などは随時紹介する。

科目番号 3722	授業科目名: 表現文化論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後月 2	英文名:	三上 雅子 教授	2～4 年	2 単位

● **科目の主題**

「映像に表れた大阪像」という主題をとりあげ、映画における都市の表象、映像によって作り出される都市イメージについて講じる。

● **到達目標**

歴史的変遷や社会状況、伝統文化との関連など複合的な視点を取り入れつつ、近年の文化理論の知見をも踏まえ、都市の表象を分析・考察することを学ぶ。

● **授業内容・授業計画**

映画を中心にTVドラマ等を含め、「映像に表れた大阪像」が表象しているものについて考察していく。具体的には、今日の「大阪像」に見られる、ともすればステレオタイプのイメージ(お笑い、庶民の町)がいつ頃誕生したのか、またなにゆえにそのような大阪イメージが定着していったのか、このような大阪像が一般化する以前には、映像(特に映画)はどのように大阪を表現していたのかを、現代から遡って講じていく。「映像に表現された大阪像」の歴史的変遷を辿っていくことによって、受講者は新たな大阪像を発見するであろう。また映像が作り出す都市イメージが、現実の都市の在り方にどのように影響していくのか、映像がそれを鑑賞する者の現実認識をどのように規定していくのかについても、近年の研究動向を踏まえて分析していく。なお、教育実習生の芝田氏には、モダニズム文化の発信地であった時代の大阪における映画、演劇、建築等について貴重な資料を使用して講じてもらう。

● **評価方法**

レポート 85%、出席などの平常点 15%。

● **受講生へのコメント**

大阪を舞台とする映画や小説に積極的に触れるようにしておいてほしい。現在の大阪像だけでなく、歴史的・社会的など複合的な視野のもとで、大阪イメージを再構築してもらいたい。

● **参考文献・教材**

授業中に適宜指示する。

科目番号 3723	授業科目名: 表象文化論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前火2	英文名: Lecture in Culture and Representation	野末 紀之 教授	2・3年	2単位

●**科目の主題**

本講義では、広告、ポスター、写真などのメディアにおける表現がいかにポリティカルな主題と密接にかかわっているかを考察するとともに、それらを分析し解読するための方法と理論を学習する。

●**到達目標**

目標は、表現を分析し解読するための語彙と方法を習得し、その成果を他人に説得的に提示できたと感じることである。

●**授業内容・授業計画**

メディアにおける表現で、他者性やジェンダーにかかわるものを論じたテキストを読んでいく。適宜、演習形式を採用する。

●**評価方法**

出席、発表、試験、レポートを総合的に判断する。

●**受講生へのコメント**

講義への積極的な参加を求める。

●**参考文献・教材**

Stuart Hall 編集の *Representation* より、Chapter 4,5 をプリントで配布する。

科目番号 3724	授業科目名: 比較表現論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前火3	英文名: Lecture in Comparative Representation	小田中 章浩 教授	2～4年	2単位

●**科目の主題**

この講義では、西洋における演劇(ドラマ)の歴史を概観する。

●**到達目標**

受講生が西洋演劇の展開、ならびにそこに含まれている問題点について、十分な知識と理解を得ることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

西洋では古代ギリシャから20世紀に至るまで、演劇(ドラマ)は、文学を構成する大きな柱の一つであった。そこで講義では、まずドラマ(劇)を文学の一形式として見た場合、どのように位置づけられるのかを、アリストテレスの「詩学」を用いてを説明する。

●**評価方法**

評価は学期末の試験によって行い、与えられた知識がどこまで身についているかを問う。

●**受講生へのコメント**

本講は、受講生に対して何よりも「生の」舞台を見ることのおもしろさを体験してもらうことを求める。授業の過程において興味深い(と思われる)舞台の公演情報や、チケットの割引等に関する情報があれば随時提示する。

●**参考文献・教材**

授業中にプリントを配布する。また必要に応じて映像資料も用いる。

科目番号 3725a	授業科目名: 文化理論基礎演習 a	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後木2	英文名: Basic Seminar in Culture Theory	野末 紀之 教授	2年	2単位

●**科目の主題**

表現文化コースではさまざまなメディア(媒体)における表現を分析の対象としている。この講義では、分析の方法とその基礎をなす理論を学習する。

●**到達目標**

目標は、各自、学習の成果を広告や写真など具体的な表現の解読に応用して、他人を説得できたと思えることである。

●**授業内容・授業計画**

受講生には毎回英文テキストを読んで内容をレジュメに要約し、報告してもらう。そのさい、①全体の要約、②最

重要点の提示、③具体例による説明、④コメントおよび批評、の四点を行なうことが求められる。また後半三回のいずれかで、各自の選んだ素材について解説したことを発表してもらおう。

●**評価方法**

出席、発表、レポート、試験を総合的に判断する。

●**受講生へのコメント**

表現文化コース所属の2回生を対象とする。表現文化コース2回生は、この「文化理論基礎演習」を必ず履修すること。クラスの振り分けは教員が行なう。

●**参考文献・教材**

Stuart Hall 編集の *Representation* より、Chapter 1 をプリントして配布する。参考文献は授業中に指示する。

科目番号 3725b	授業科目名: 文化理論基礎演習 b	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後木 2	英文名: Basic Seminar in Culture Theory	高島 葉子 准教授	2 年	2 単位

●**科目の主題**

表現文化コースでは、文学や美術などの芸術作品だけでなく、テレビ、映画、雑誌、マンガなど日常的に接する身近な「ポピュラー文化」をも研究対象にする。こうした対象を研究するための理論、方法論の基礎を学ぶ。

●**到達目標**

文献の報告を通して、まとまった論考の内容を的確に要約報告するスキルを習得するとともに、学んだ概念と方法論を用いて、身近な文化現象について分析し、短いレポートにまとめることができるようにする。合わせて、英語文献の講読を通して英語力の強化を目指す。

●**授業内容・授業計画**

毎回の授業の前半に、ポピュラー文化に関する英語文献を講読し、後半に日本語の文献を受講生で分担してレジメを作成し内容を報告する。学期末には各自で興味のある題材について分析・発表を行い、レポートにまとめる。また、レポート作成に不可欠な文献検索の講習(学情センター)も予定している。

●**評価方法**

出席、発表、試験、レポートを総合的に判断する。

●**受講生へのコメント**

英語テキストは入門書ではあるが、読み応えがあるので、十分な予習が必要。また、授業への積極的な参加が求められる。受講生は原則的に表現文化コースに所属する学生にかぎられる。

●**参考文献・教材**

テキスト: 渡辺潤、伊藤明巳編『〈実践〉ポピュラー文化を学ぶ人のために』(世界思想社)

英語文献についてはプリントを配布する。使用テキストは、John Storey, *Cultural Studies and the Study of Popular Culture* からの抜粋。

科目番号 3726a	授業科目名: 表現・表象文化論基礎演習 a	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前月 2	英文名: Basic Seminar in Culture and Representation	三上 雅子 教授	2 年	2 単位

●**科目の主題**

表現文化コースが考察対象とする文化現象は多岐にわたり、当然そこには必ずしも特定の「作者」によって創造された「作品」とは呼べないものも多く含まれる。しかし、書かれる卒業論文のテーマを見ると、依然として作品分析が重要な位置を占めるものも少なくない。そこでこの授業ではひとつの「作品」という形態をとって現れる表現に対象を中心に扱い、それを表現論的視点から分析するレッスンを行う。

●**到達目標**

多様な表現を多面的かつ柔軟に考察し、論理的な文章にまとめる基本的スキルを習得する。

●**授業内容・授業計画**

考察対象として扱われる作品のジャンルとしては、小説、エッセイ、漫画、写真、演劇、映画などを予定している。毎回、こちらから作品を指定し、受講者はそれについて短いレポートを執筆し、事前に提出する。授業では提出されたレポートを素材に作品の考察を共同で進める。レポートの執筆と添削を通して、論理的な文章の書き方を学んでもらう。また学期末にはソフトウェアを用いたプレゼンテーション作成を学び、全員にプレゼンテーションによる発表を行ってもらおう。

●**評価方法**

評価は作品分析のレポートとプレゼンテーション(口頭発表)による。期末レポートは課さない。

●受講生へのコメント

表現文化コースの2回生はかならず受講すること。授業は2クラスに分けて行う。クラス分けは学期初めのガイダンスで発表する。

授業は三上と海老根がオムニバスで担当する。

作品に触れて感じたことから出発して論理的思考を組み立てるスキルを学んでください。

この授業は表現文化コースの学生を対象とする授業です。他コースの学生は受講できません。

●参考文献・教材

その都度、文献等を配布する。

科目番号 3726b	授業科目名: 表現・表象文化論基礎演習 b	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前月 5	英文名: Basic Seminar in Culture and Representation	海老根 剛 准教授	2 年	2 単位

●科目の主題

表現文化コースが考察対象とする文化現象は多岐にわたり、当然そこには必ずしも特定の「作者」によって創造された「作品」とは呼べないものも多く含まれる。しかし、書かれる卒業論文のテーマを見ると、依然として作品分析が重要な位置を占めるものも少なくない。そこでこの授業ではひとつの「作品」という形態をとって現れる表現を対象を中心に扱い、それを表現論的視点から分析するレッスンをを行う。

●到達目標

多様な表現を多面的かつ柔軟に考察し、論理的な文章にまとめる基本的スキルを習得する。

●授業内容・授業計画

考察対象として扱われる作品のジャンルとしては、小説、エッセイ、漫画、写真、演劇、映画などを予定している。毎回、こちらから作品を指定し、受講者はそれについて短いレポートを執筆し、事前に提出する。授業では提出されたレポートを素材に作品の考察を共同で進める。レポートの執筆と添削を通して、論理的な文章の書き方を学んでもらう。また学期末にはソフトウェアを用いたプレゼンテーション作成を学び、全員にプレゼンテーションによる発表を行ってもらおう。

●評価方法

評価は作品分析のレポートとプレゼンテーション(口頭発表)による。期末レポートは課さない。

●受講生へのコメント

表現文化コースの2回生はかならず受講すること。授業は2クラスに分けて行う。クラス分けは学期初めのガイダンスで発表する。

授業は三上と海老根がオムニバスで担当する。

作品に触れて感じたことから出発して論理的思考を組み立てるスキルを学んでください。

この授業は表現文化コースの学生を対象とする授業です。他コースの学生は受講できません。

●参考文献・教材

その都度、文献等を配布する。

科目番号 3727	授業科目名: 表現・表象文化論演習 I	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後火 4	英文名: Seminar in Culture and Representation I	高島 葉子 准教授	2・3 年	2 単位

●科目の主題

視覚メディア、視覚芸術としての絵本の分析を主題とする。

●到達目標

絵本の表現技法についての基本的知識を習得し、それらの知識を用いて作品の分析を行えるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

学期前半は、絵本研究の入門書を教材として、視点、語り手、絵と言葉の同調など、絵本の基本的表現技法について学び、後半は具体的な絵本の論考を取り上げて報告、討論を行うことを通じて、絵本の分析方法を習得する。最後に、各自が題材として選んだ作品について、分析、発表を行い、学期末のレポート作成の準備をする。

●評価方法

出席状況、平常点(発表と討論)、レポート。

●受講生へのコメント

受講生による報告、発表、討論を中心に授業を進めるので、絵本への関心を高め、積極的に参加してほしい。

●参考文献・教材

テキスト:藤本朝巳『絵本はいかに描かれるか』(日本エディタースクール)

参考文献:授業中に指示する。

科目番号 3728	授業科目名: 表現・表象文化論演習Ⅱ	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後水5	英文名: Seminar in Culture and Representation Ⅱ	小田中 章浩 教授 海老根 剛 教授 中川 眞 教授	2・3年	2単位

●科目の主題

アーツマネジメントとは、芸術と社会をつなぎ、アーティストと一般の人々のあいだの出会いと協働を組織する仕事です。この演習では、講義、ワークショップ、実習を交えて、アーツマネジメントの基礎を学びます。

●到達目標

アーツマネジメントの基礎的な理論を学んだうえで、展覧会や講演会などの企画立案を行い、実際にその企画の実現を通して、アーツマネジメントに現在求められている課題とそれにふさわしい手法を学びます。

●授業内容・授業計画

開講形式が通常の講義や演習とは大幅に異なるので注意すること。最初のガイダンスに続いて、アーツマネジメントに関する導入的な講義を行い、その後はグループに分かれての実習となる。実習における実際の作業は、授業時間外に行われ、授業ではプロジェクトの進捗状況の報告と問題点の討議が行われる。

この授業は後期に開講されるが、前期のうちに説明会を行い、スケジュールとグループ分けを行うので、掲示に注意し、受講希望者はかならずこの説明会に参加するようにしてください。また、授業は一部、不定期に行われることとなりますが、この点についても説明会で説明します。また、最終的な企画の実施は授業期間の終了後(2月後半や3月など)になることも考えられます。受講者はその点を了解の上で受講してください。

以下に15回の授業計画を掲げるが、これはあくまでも仮のものであり、実際には複数の作業が同時進行することになるので、その点に留意するように。

●評価方法

展覧会などのプロジェクトを企画立案・実施するワーキンググループへの参加度および最終的なプロジェクトの成果にもとづいて成績評価を行う。

●受講生へのコメント

この授業は、通常の「座学」の授業とは正反対のコンセプトにもとづいて実施されます。他人から教えてもらうのを受動的に待つのではなく、みずから動くことを通して学習する能動的な態度が、受講者には要求されます。企画を実際に実現するための作業の大半は、授業時間外に行われます。型破りな授業ですので、ラクではありませんが、アーツマネジメント(広くは文化を社会に届ける仕事)に関心のある学生には、やりがいのある授業になるはずです。やる気のある学生の積極的な参加を期待します。

●参考文献・教材

適宜紹介する。

科目番号 3729	授業科目名: 表現・表象文化論演習Ⅲ	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前火4	英文名: Seminar in Culture and Representation Ⅲ	小田中 章浩 教授	3・4年	2単位

●科目の主題

記憶喪失とその表象

●到達目標

受講者が科目の主題に関する報告ならびにディスカッションを行うことにより、表現文化的な問題に対するアプローチの方法を理解すること。

●授業内容・授業計画

昨年度に引き続き、記憶喪失というテーマが文学、演劇、あるいは映画においてどのように表現(表象)されているかを受講者と共に考える。なぜなら記憶喪失(解離性健忘)が小説、演劇、映画の主題として用いられた場合、その実態がそのまま描き出されることはまずないからである。それは話の筋をおもろくするために不要な部分を切り捨てて単純化され、あるいは誇張される。すなわち「表象としての記憶喪失」である。

この講義では、こうした観点から演劇および映画における「表象としての記憶喪失」の描かれ方、あるいは PTSD(心的外傷後ストレス障害)としての解離性健忘の歴史的由来について説明する。その上で受講者にグループ単位で、現代の小説、映画、演劇、マンガ、さらにゲーム等における「表象としての記憶喪失」の事例について報告

してもらい、その表象のあり方についてディスカッションを行う。

●**評価方法**

毎回の演習におけるディスカッションへの貢献度、与えられた課題への取り組み方、さらに学期末のレポートによって総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

受講生は、毎回の授業に参加して必要な報告を行うだけでなく、他の発表について積極的に意見を述べることが求められる。

●**参考文献・教材**

授業中にプリントを配布する。また必要に応じて映像資料も用いる。

科目番号 3730	授業科目名： 表現・表象文化論演習IV	担当教員名：	標準履修年次	単位数
開講期 前木2	英文名： Seminar in Culture and Representation IV	三上 雅子 教授	3・4年	2単位

●**科目の主題**

現代文化を考えると、それがハイカルチャーであれポピュラーカルチャーであれ、パロディあるいは二次的創作と呼ばれる営為を無視することはできない。我々は今日、先行作品をさまざまに引用し変容させることによって生み出される作品群に取り囲まれて生活しているといっても過言ではない。過去のあるいは同時代の作品を変容する行為は、どのように解釈されるのか。なぜそれが今日かくも多くの人を惹きつけるのか。パロディという観点から、現代芸術・現代文化について考察する。

●**到達目標**

歴史的変遷や社会状況など複合的な視点を取り入れつつ、近年の文化理論の知見をも踏まえ、芸術作品ならびに文化現象を分析・考察することを学ぶ。

●**授業内容・授業計画**

パロディに関する先行理論・先行研究について講じた後、受講生に特定の作品・事例に関して発表してもらう。対象作品のジャンルは小説、映画、マンガ、美術等が考えられるが、それ以外を取り上げて発表することも可能である。

●**評価方法**

授業中の発表 40%、レポート 60%。

●**受講生へのコメント**

現代の文化現象を扱うので、受講生による活発なディスカッションを期待する。

●**参考文献・教材**

授業中に適宜指示する。

科目番号 3731	授業科目名： 比較表現論演習	担当教員名：	標準履修年次	単位数
開講期 前木4	英文名： Seminar in Comparative Representation	海老根 剛 准教授	3・4年	2単位

●**科目の主題**

アンドレ・ルロワ＝グーランの代表的著作『身ぶりと言葉』を読みます。ルロワ＝グーランは 20 世紀フランスの先史人類学者ですが、その仕事は人類学、先史学の範囲を大きく超え、現代思想から芸術理論まで幅広い領域に深い影響を与え続けています。『身ぶりと言葉』においてルロワ＝グーランは、言葉と身ぶりの同時発生のプロセスの考察を出発点に、技術、記憶、造形表現、社会組織の人類学的基盤と現代にいたるまでの進化の過程を驚くべき視点から分析してみせます。この授業ではルロワ＝グーランの考察をたどりながら、特に言語、技術、身ぶり、イメージの根底と現在の様態について考えてみます。

●**到達目標**

ルロワ＝グーランの文章を読み、言語、技術、身ぶり、イメージの理解を深める。

●**授業内容・授業計画**

授業ではまず私がルロワ＝グーランの紹介と『身ぶりと言葉』の基本的前提を解説します。その後、授業参加者に発表を割り振り、各章を順番に読み進めます。

●**評価方法**

口頭発表、レジュメ(配布資料)、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。

●**受講生へのコメント**

授業への積極的な参加を期待する。また純然たる好奇心にもとづく単位不要の学生の受講も歓迎します。

現在、私たちは近代社会で自明であった表現の諸前提(「芸術」、「作品」、「作者」、「批評」等々)が崩れ去る様を目撃しています。表現の根底から未来を照射するルロワ＝グーランの考察に触れるには絶好の時期が到来したと言えるでしょう。表現や身体や社会に関心のある学生の受講を歓迎します。

●参考文献・教材

アンドレ・ルロワ＝グーラン『身ぶりと言葉』(荒木亨 訳、ちくま学芸文庫)

科目番号 3732a	授業科目名: 文化理論特別演習 a	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後火 2	英文名: Advanced Seminar in Culture Theory	小田中 章浩 教授	3・4 年	2 単位

●科目の主題

卒業論文作成のための研究テーマの設定と研究計画書の作成。

●到達目標

本講は表現文化学コースに所属する三回生(四回生)を対象とし、表現文化学コースにおいて卒業論文を書くための研究テーマ設定の方法、問題の論理的な構築ならびに分析の方法について指導し、さらにそれらのプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。したがって表現文化学コースに所属する三回生(四回生)は、この演習を必ず受講することが求められる。

●授業内容・授業計画

受講者は、卒業論文作成の予行演習として(あるいは卒業論文作成のために)、自らが選んだテーマに応じてリサーチを行う。次に、その結果に基づいて「問題」を設定し、それをどのように解決するかについて順番に発表する。それぞれの発表について、他の受講者を交えたディスカッションを行い、受講者が設定した問題を、より深く理解することを目指す。発表は基本的に PowerPoint を用いて行う。PowerPoint の使い方については、必要に応じて授業中に説明する。また小論文の書き方(論理的な思考法)についても解説する。

●評価方法

評価は、各自の発表と、講義終了後に提出する小論文によって行う。

●受講生へのコメント

この a クラスは、表現文化学コース所属の三回生のうち、学生番号順に数えて最初の三分の一の学生が受講することを想定している。ただしやむを得ない事情により a クラスを受講できない者については、b クラスまたは c クラスへの移動を認めるので、受講前に教員に相談すること。

●参考文献・教材

授業中にプリントを配布する。

科目番号 3732b	授業科目名: 文化理論特別演習 b	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後水 2	英文名: Advanced Seminar in Culture Theory	小田中 章浩 教授	3・4 年	2 単位

●科目の主題

卒業論文作成のための研究テーマの設定と研究計画書の作成。

●到達目標

本講は表現文化学コースに所属する三回生(四回生)を対象とし、表現文化学コースにおいて卒業論文を書くための研究テーマ設定の方法、問題の論理的な構築ならびに分析の方法について指導し、さらにそれらのプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。したがって表現文化学コースに所属する三回生(四回生)は、この演習を必ず受講することが求められる。

●授業内容・授業計画

受講者は、卒業論文作成の予行演習として(あるいは卒業論文作成のために)、自らが選んだテーマに応じてリサーチを行う。次に、その結果に基づいて「問題」を設定し、それをどのように解決するかについて順番に発表する。それぞれの発表について、他の受講者を交えたディスカッションを行い、受講者が設定した問題を、より深く理解することを目指す。発表は基本的に PowerPoint を用いて行う。PowerPoint の使い方については、必要に応じて授業中に説明する。また小論文の書き方(論理的な思考法)についても解説する。

●評価方法

評価は、各自の発表と、講義終了後に提出する小論文によって行う。

●受講生へのコメント

この b クラスは、表現文化学コース所属の三回生のうち、学生番号順に数えて中央の三分の一に属する学生が受講することを想定している。ただしやむを得ない事情により b クラスを受講できない者については、a クラスまたは c

クラスへの移動を認めるので、受講前に教員に相談すること。

●参考文献・教材

授業中にプリントを配布する。

科目番号 3732c	授業科目名: 文化理論特別演習 c	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後水 3	英文名: Advanced Seminar in Culture Theory	小田中 章浩 教授	3・4 年	2 単位

●科目の主題

卒業論文作成のための研究テーマの設定と研究計画書の作成。

●到達目標

本講は表現文化学コースに所属する三回生(四回生)を対象とし、表現文化学コースにおいて卒業論文を書くための研究テーマ設定の方法、問題の論理的な構築ならびに分析の方法について指導し、さらにそれらのプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。したがって表現文化学コースに所属する三回生(四回生)は、この演習を必ず受講することが求められる。

●授業内容・授業計画

受講者は、卒業論文作成の予行演習として(あるいは卒業論文作成のために)、自らが選んだテーマに応じてリサーチを行う。次に、その結果に基づいて「問題」を設定し、それをどのように解決するかについて順番に発表する。それぞれの発表について、他の受講者を交えたディスカッションを行い、受講者が設定した問題を、より深く理解することを目指す。発表は基本的に PowerPoint を用いて行う。PowerPoint の使い方については、必要に応じて授業中に説明する。また小論文の書き方(論理的な思考法)についても解説する。

●評価方法

評価は、各自の発表と、講義終了後に提出する小論文によって行う。

●受講生へのコメント

この c クラスは、表現文化学コース所属の三回生のうち、学生番号順に数えて最後の三分の一の学生が受講することを想定している。ただしやむを得ない事情により c クラスを受講できない者については、a クラスまたは b クラスへの移動を認めるので、受講の前に教員に相談すること。

●参考文献・教材

授業中にプリントを配布する。

科目番号 3733	授業科目名: 表現文化論特論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後火 3	英文名: Specific Lecture in Art and Representation	増田 聡 准教授	3・4 年	2 単位

●科目の主題

映画や絵画のように距離をもって鑑賞されるというより、衣服のごとく身にまとう「もの」へと接近しつつある 21 世紀初頭のポピュラー音楽環境を、複製技術、主体性の変容、盗作と所有権意識等の観点から検討する。

●到達目標

音楽文化研究への学術的アプローチに必要な「音楽の捉え方」を獲得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

講義形式。授業計画は仮のものであり、履修者との相談により適宜変更する。また視聴覚資料を多用する。

●評価方法

期末レポートによる評価

●受講生へのコメント

楽典の知識は必要としないが、文化一般について広く関心を持つ学生の履修を期待する。

●参考文献・教材

参考文献として下記をあげておく。音楽分野について卒論執筆を考えている受講生は一読しておくこと。

増田聡『その音楽の〈作者〉とは誰かーリミックス・産業・著作権』(みすず書房)

増田聡『聴衆をつくるー音楽批評の解体文法』(青土社)

増田聡・谷口文和『音楽未来形ーデジタル時代の音楽文化のゆくえ』(洋泉社)

科目番号 3734	授業科目名: 表象文化論特論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
--------------	-------------------	--------	--------	-----

開講期 前集中	英文名: Specific Lecture in Culture and Representation	河本 真理 非常勤講師	3・4年	2単位
------------	--	-------------	------	-----

● **科目の主題**

西洋近現代美術(主に20世紀美術)の諸相を、年代順に追うのではなく、鍵となる概念(抽象、コラージュ、総合芸術作品、偶然、複製とアウラ…)を通して浮かび上がらせませす。

● **到達目標**

西洋近現代美術の基礎的な概念と批評言語をおさえ、その歴史的な文脈(コンテキスト)を理解します。

● **授業内容・授業計画**

基本的には、西洋近現代美術についてテーマ別に論じますが、本学で西洋近現代美術の通史の講義を受ける機会がないことを考慮して、最初に簡単に通史を概観する準備段階を設けます。

● **評価方法**

授業中に扱った内容から興味のあるテーマを選び、必ず具体的な作品分析を踏まえたレポートを提出すること。註・参考文献を明記し、インターネットのサイトからの文章のダウンロードは不可。図版・キャプションも付けること。レポート(80%)、出席点(20%)。

● **受講生へのコメント**

講義は、講師が作成したプリントを基に、パワーポイントで提示する作品の画像に解説を加えながら進めます。講義中に見せた画像をプリントアウトしたものは配布しないので注意すること。

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』の該当する部分や、高階秀爾『近代絵画史(上・下)』(特に下巻)をあらかじめ読んで、通史の大まかな流れを理解しておくこと、テーマ別の講義を一層理解しやすくなります。講義の後、受講者が各自興味を持ったテーマについて、指示された参考文献等を読んで調べるのが望ましいです。

なお、集中講義は、9月後半開講予定です。

● **参考文献・教材**

教科書:河本真理『葛藤する形態—第一次世界大戦と美術』人文書院、2011年。参考文献:『世界美術大全集 西洋編』小学館、1992~1997年。

E. H. ゴンブリッチ『美術の物語』ファイドン、2007年。

高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年。

高階秀爾『近代絵画史(上・下)』中公新書、1975年。

天野知香『装飾／芸術—19-20世紀のフランスにおける「芸術」の位相』ブリュッケ、2001年。

河本真理『切断の時代—20世紀におけるコラージュの美学と歴史』ブリュッケ、2007年。

詳しい参考文献は、授業中に適宜指示します。

科目番号 3735	授業科目名: 比較表現論特論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後月4	英文名: Specific Lecture in Comparative Representation	浅岡 宣彦 特任教員	1~4年	2単位

● **科目の主題**

主題:ロシア文化における文学と他の芸術との関係

● **到達目標**

目標:ロシア文化を概括的に紹介し、文学作品とその他の芸術作品とを比較しつつ、ロシア文化の特徴を考察する。

● **授業内容・授業計画**

授業内容:ロシア文化のいくつかの分野を概説し、それらの分野に関連する文学作品とそれを素材に用いた他の芸術ジャンル(音楽、美術、演劇、映画等)の作品を取り上げ、表現方法や解釈の相違などを比較検討する。それと同時に、いくつかの重要なテーマを取り上げ、異なる芸術形態における相違と共通性を検討する。可能な限り、映像化された作品を取り上げ、その一部を鑑賞してもらおう。

● **評価方法**

具体的に作品を複数読んでもらい、いくつかのテーマに沿ってレポートとテストで論じてもらおう。出席とコミュニケーション・カードの記述を考慮し、レポートとテストで総合的に評価する。

● **受講生へのコメント**

主として、ロシア文学の代表的作品とそれを素材にした様々な芸術作品を取り上げるので、必ず複数の作品を読み、鑑賞すること。

● **参考文献・教材**

適宜、プリントを配布する。

参考文献:リハチョーフ著『文化のエコロジー』(ロシア文化論ノート)、長縄光男訳、群像社。

ユーリー・ロートマン著『ロシア貴族』、桑野隆ほか訳、筑摩書房。

ビリントン著『聖像画と手斧』、藤野幸雄訳、勉誠出版。

そのほかの文献は適宜、授業中に指示する。

科目番号 3716	授業科目名: 表現文化講読 I	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後木 4	英文名: Readings in Art and Representation I	野末 紀之 教授	2~4年	2単位

●**科目の主題**

イギリスのモダニズム作家ヴァージニア・ウルフの傑作短篇「街路彷徨——ロンドンの冒険」(“Street Haunting: A London Adventure,” 1927)を精読する。中流と上流階級の女性があてもなく街を歩くことにいまだ社会的制約があった時代、ウルフは「鉛筆を一本買う」という口実のもとにそれを実行する。彼女の過敏な神経を通じて浮上するのは、ひたすら流動する印象、制御不能な記憶と想像力、不安定で多層的なアイデンティティという、大都市に住まう者に無縁ではないテーマ群である。

●**到達目標**

きわめて精緻な言語で書かれた作品を読み解く難しさと面白さを味わうとともに、読解と分析とをつなぐ方法のヒントを得るのが目標である。

●**授業内容・授業計画**

テキストを演習形式でゆっくりと読みすすめる。

●**評価方法**

出席、発表、試験を総合的に判断する。

●**受講生へのコメント**

ゆっくりすすむので、その分、辞書を徹底的に引いて調べることが不可欠。細部を文脈のなかで理解することが必要(当然ですが)。いまのところ翻訳は出ていない。

●**参考文献・教材**

テキストはプリントを配布する。参考文献は授業中に指示する。

科目番号 3737	授業科目名: 表現文化講読 II	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後木 3	英文名: Reading In Art and Representation II	三上 雅子 教授	2~4年	2単位

●**科目の主題**

現代の文化的事象を取り上げたドイツ語テキストを取り扱う。言語テキストのみではなくドイツ語圏の文化・芸術を扱った非言語テキストをも対象とする。

●**到達目標**

ドイツ語読解力を養成するとともに、現代文化研究・比較文化研究に必要な総合的知見をも習得させる。

●**授業内容・授業計画**

日本でもたびたび上演されているオーストリア・ミュージカル『エリザベート』を取り上げる。ドイツ語による上演台本を読むとともに、オリジナル上演DVDと宝塚歌劇版DVDをもとに、日本における受容の諸問題にも触れる。受講生にはドイツ語テキストを分担・訳読してもらう。

●**評価方法**

授業中の発表 40%、レポート 60%。

●**受講生へのコメント**

訳読のみでなく、オリジナル版と日本版の比較なども行うので、受講生のコメント等を含むディスカッションも重視したい。授業への積極的参加をが望まれる。

●**参考文献・教材**

適宜指示する。

科目番号 3738	授業科目名: 表現文化講読 III	担当教員名:	標準履修年次	単位数
--------------	-----------------------------	--------	--------	-----

開講期 前水 2	英文名: Reading In Art and Representation III	小田中 章浩 教授	2～4 年	2 単位
-------------	---	-----------	-------	------

●**科目の主題**

初級レベルのフランス語を学んだ学生を対象として、表現文化に関連した中級レベルのフランス語の教材を読む。

●**到達目標**

上述のように、中級レベルのフランス語の読解力を習得してもらうことを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

昨年に引き続き、Riyoko Ikeda, *La Rose de Versailles* (池田理代子『ベルサイユのばら』)を読むと共に、この時代のフランスの文化と歴史に関する理解を深める。ただし受講者の希望により、他のマンガ、あるいは映画、ファッション等の雑誌の記事など、中級レベルのフランス語の習得に役立つ他の表現文化関連の題材を扱うこともある。

●**評価方法**

評価は平常点と期末試験によって行う。

●**受講生へのコメント**

受講生は初級レベルのフランス語力を身につけていることが求められる。

●**参考文献・教材**

授業において随時プリントとして配布する。